

# “窓口があいていて助かりました”



## 渡辺ゆり子

2010年1月17日  
第86号

発行  
日本共産党県議会議員  
渡辺 ゆり子

<連絡先>  
日本共産党県議団執務室  
電話 023-630-3241(受付)  
自宅：山形市青田2-10-5  
電話 023-642-2365

## 年末の生活総合相談 県内自治体が取り組み

### 共産党議員・諸団体が各地で要求

国の緊急雇用対策として、求職中の貧困・困窮者が安心して生活が送れるよう年末年始の生活総合相談を全国136自治体で実施しました。

県内では、日本共産党県議団や地方議員が各議会で年末の相談窓口を実施するよう取り上げ、山形版派遣村実行委員会や県労連なども自治体申し入れを行ってきました。県も積極的に取り組み、県内10市を含む14の相談窓口を12月29、30の両日に設置しました。

県地域福祉課のまとめによると、23件の相談が寄せられ、13件は生活保護の相談でした。社会福祉協議会も8カ所に対応し、生活福祉資金13件を含む22件の相談が寄せられました。

地方議員が同行し生活保護申請を行ったある自治体

では、ガスも止められたという相談者の実態を聞き、米や携帯コンロのガスボンベをとりあえず支給するな

## 参院選へ 新年のスタート

新春の2日、そして8日、山形市内で日本共産党の街頭宣伝を行いました。

7月に行われる参院選の太田とお山形選挙区候補を先頭に、新年のあいさつをかねながら訴えました。

山形選挙区では、他党候補は未定なため、太田候補への注目度は抜群です。

太田候補は、「昨年は、山形で女性知事を誕生させ、国民の力で自公政権を退場させた」「民主党政権は、前進もあるが不安もある」と述べ、「大企業減税や米



軍への『思いやり予算』にメスを入れれば、国民のくらしを守り、社会保障の財源をつみ出せる」と訴え、「日本共産党の議席を大きくし、政治を前に進める年にしよう」と力強く呼びかけました。

## 何でも相談会に 相談員として参加

山形版派遣村実行委員会主催

12月27日に山形市で開かれた「何でも相談会」は、2009年3回目でした。



全体で25人、

のべ27件の相談が寄せられ、生活保護や労働相談に関わるものが多くなっています。

相談員として私が対応した方は、30代男性で、愛知県で派遣切りで、一年ほど前に県内の実家に帰ってきた方です。職探しを続けているものの、生活資金が底をつきかけて不安が大きくなっていました。

私は、生活保護や住宅手当、福祉貸付などの制度があることなど話し、励まし、

た。男性は、「制度活用もしながら、なんとかも働きたいので求職活動をがんばりたい」と語っていました。

翌28日には、相談者のうち5人が、山形市に生活保護の申請を行いました。

県内では、実家の支えでなんとかしのいでいる方が、多くおられるのではないのでしょうか。この不況で家族で支えきれない状況も出てきており、ある地方議員のもとへは、「年金で、職のない孫の生活を支えているが、もう限界」といった高齢者の相談も寄せられています。

## 2010年の空気

ゆり子の視点

年明けは、新年の祝賀のあいさつを多くの方と交わす機会があります。

地域の方からは、「職がなくて若い人が苦労している」と訴える中年女性や、「若い人ばかりでない。年金ぐらしの高齢者は、老老介護の人が多くいるよ。なんとかしてもらわない」と声をかける人など、そして決まって、「がんばってくださいね」と激励の声。テレビで報道される事業仕分けや政府の新政策の内容についても、昨年から今年にかけて様々な反響がありました。

後期高齢者医療制度の廃止先送りには、「期待したのに、これからどうなっていくのか不安」ともらす人、「政治とカネ」の問題について、「民主党も自民党も結局同じ体質」と怒る人、政権交代させた住民の方々の「国政も地方政治も、もっと前向きに変えてほしい」という思いの強さを実感しています。

参院選の今年、建設的野党である日本共産党への期待は大きいものがあります。こいつしよに、政治を前進させましよう。



### 1月の県議会

閉会中の委員会審査が行われます

19日(火) 各常任委員会

20日(水) 各特別委員会